

### 風の谷のナウシカ

千年前の「火の七日間」と呼ばれる最終戦争により、巨大産業文明は崩壊し、錆とセラミック片におおわれた荒れた大地に「腐海（ふかい）」と呼ばれる有毒の瘴気を発する菌類の森に世界は覆われているのです。

人類は生き残るが衰退し、腐海が放つ猛毒と、そこに棲む巨大な虫たちに脅かされていますが、辺境にある「風の谷」は、酸の海から吹く風によって森の毒から守られ、のどかな農耕生活を送っていました。

族長の娘であるナウシカは、住民から深く敬愛されており、人々から恐れられている腐海の虫とも心を通わせる優しい少女であります。

ある夜、大国トルメキアの輸送機が風の谷に墜落します。輸送機には、千年前に世界を焼き尽くしたという巨大人型兵器の「巨神兵（きょしんへい）」の胚が積まれていました。

失意から捕虜となったナウシカらは、トルメキアに護送される途中、突然現れた戦闘機の攻撃により大きな損害を受けます。護衛機がその戦闘機を撃墜するものの、ナウシカが乗る輸送機も被弾し落下します。

ナウシカは、輸送機から脱出しますが、腐海に不時着したナウシカらは、敵の戦闘機に乗っていた少年が虫に襲われていることに気づき、少年を助けます。

少年はトルメキアと敵対するペジテのアスベルでした。風の谷にある巨神兵は、このペジテで発掘されたのちにトルメキアが奪ったものでした。ペジテの仲間たちは、風の谷にある巨神兵を奪還するために王蟲の大群を風の谷に誘導し、風の谷のトルメキア軍を全滅させる計画を企てていたのです。

そのころ風の谷では、住民達がトルメキア軍に反旗を翻し、谷から離れた遺跡の中に立て籠もって膠着状態が続いていました。そこに王蟲の群れが近づいているという知らせが入り、王妃クシャナは巨神兵を未完成のまま目覚めさせ、王蟲を焼き払おうとするのですが、巨神兵はすぐに体が崩れて死に、王蟲の群れの暴走を止めることができないのです。

暴走する王蟲の群れの前方に、この暴走のきっかけとなった王蟲の幼生とともにナウシカが空から降り立ちます。ナウシカと幼生は王蟲に跳ね飛ばされてしまいましたが、間もなく王蟲の暴走が止まり、王蟲の群れはナウシカを囲むようにして動きを止めます。倒れているナウシカは死んでいるかのように見えたのですが、王蟲の触手がナウシカを包むとナウシカが立ち上がります。その光景は、風の谷に古くから伝わる救世主伝説を具現するかのようであったのです。

全てが終わった後、ナウシカはクシャナに歩み寄ります。その後、王蟲の群れとトルメキア軍は風の谷から去り、風の谷には平和な生活が戻るのです。

もう一度再生する世界は、ふくしまの象徴です。有毒の瘴気を発する菌類の森は、いつの間にかその自浄作用によって、浄化されていくことがナウシカによって確認されるのです。

きっと、ふくしまにもナウシカが出現します。本校生の研究によって、放射能の森は、浄化される可能性をこの世のものとし、ふたたび、故郷ふくしまは再生するのです。

そんな日を心から願います。

